

TV Sports
どこかで聞いた
クラシック
Movie etc...

▲ かがわ文化芸術祭2023参加公演

高松交響楽団

第129回定期演奏会

2023 11.26 日

開演 14:00

レクザムホール 大ホール

[香川県県民ホール]

主催：高松交響楽団 (TSO)

協力：高松国際ピアノコンクール組織委員会

後援：香川県、高松市、朝日新聞高松総局、産経新聞社、山陽新聞社、四国新聞社、毎日新聞高松支局、
読売新聞高松総局、RSK 山陽放送、RNC 西日本放送、OHK 岡山放送、KSB 瀬戸内海放送、TSC テレビせとうち、
KBN 株式会社、CMS ケーブルメディア四国、CVC 中讃テレビ、FM 香川、FM815、高松リビング新聞社、
ナスタウン出版

Greeting

今日は、高松交響楽団第129回定期演奏会にご来場いただき、誠にありがとうございます。

今回は「どこかで聞いたクラシック」というテーマで、クラシック音楽が好きな方はもちろん、普段あまりクラシック音楽になじみのない方々にも気軽に楽しんでいただけるTV、舞台、映画そしてスポーツ等、日常生活の中でも耳にすることの多い名曲を選びました。指揮者には国内外で活躍されている上野正博氏、ピアニストには今年2月に開催された「第5回高松国際ピアノコンクール」で香川県出身として初となる本選入賞（4位）を果たした西本裕矢氏をお迎えし、音楽の楽しさ、美しさ、そしてひとときの安らぎと明日への元気をお届けしたいと思います。

どうぞ最後までごゆっくりお楽しみください。

Program

歌劇「フィガロの結婚」序曲（W.A.モーツァルト）

「フィガロの結婚」は、モーツァルトが数多く作曲したオペラの中で、最も有名な作品の一つであり、現在も世界中で愛され続けている大人気作品です。このオペラはスペインのセビリアを舞台としており、伯爵家の従者として働くフィガロとスザンナの結婚式当日に巻き起こる大騒動を描いたコメディです。本日、演奏する序曲にはオペラの有名なメロディは出てきませんが、このオペラの明るく華やかな雰囲気を感じることができます。

曲の冒頭は、人々がひそひそとうわさ話をしているような弦楽器とファゴットによるメロディで始まります。そこに突然疾走感のある華やかなメロディが現れ、冒頭のメロディと交互に奏でられながら、徐々に盛り上がり、フィナーレで最高潮に達し、豪華絢爛な雰囲気で曲を締めくくります。

5分程度の短い曲ですが、その中に疾走感のあるフレーズやチャーミングなフレーズが散りばめられ、誰からも愛される人気曲となっています。輝かしく豪華な雰囲気の曲ですが、各楽器が演奏するフレーズは非常にシンプルです。モーツァルトはそれらを無駄なく組み合わせて最大の効果を引き出しており、モーツァルトが天才と呼ばれる所以がよくわかる名曲です。



W.A. モーツァルト
(1756 ~ 1791)

ピアノ協奏曲第2番 ハ短調（S.ラフマニノフ）

ラフマニノフのピアノ協奏曲第2番は、自らも超一流のピアニストであったラフマニノフの代表作であり、コンクールや演奏会で頻繁に演奏されるとともに、フィギュアスケートでも使われるなど、数あるクラシック音楽の中で最も人気のある曲の一つです。

ラフマニノフはロシアで生まれ育ち、ピアニストとしての道を歩むと同時に、ピアノ曲のみならず管弦楽曲、歌曲などを作曲し、ピアニスト兼作曲家としての道を順調に歩みます。しかし、初めて書き上げた交響曲第1番の初演で、大変な不評を浴び、神経衰弱の状態になってしまいます。その後、モスクワの精神科医として名高かったダール博士の治療により回復したラフマニノフは、回復の証としてこの曲を作曲します。初演は作曲家自身の演奏によりモスクワで行われ、大恩を受けたダール博士に献呈されています。



S. ラフマニノフ
(1873 ~ 1943)

曲は3楽章編成となっており、全編にわたって、美しく魅力的なメロディーで溢れ、それらが独奏ピアノのみでなく、オーケストラの様々な楽器で演奏されるように、散りばめられています。ピアノとオーケストラの魅力を存分に堪能でき、聴く人の心を掴んで離さない不朽の名作です。

第1楽章 Moderato 鐘の音を連想されるピアノの序奏で始まり、弦楽器とクラリネットにより、苦悩に満ちた第1主題が奏でられます。その後、暗闇に一筋の光がさすように優しく美しい第2主題が現れます。この第2主題はピアノ独奏により奏でられ、徐々に発展していきます。その後、再び冒頭の第1主題が強烈に奏でられ、焦燥感を感じさせる雰囲気で曲が終わります。

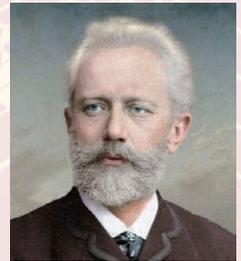
第2楽章 Adagio sostenuto 弦楽器の序奏の後、ピアノのアルペジオにのって、フルートの美しいメロディーが登場します。続いて、郷愁に満ちた主題がクラリネットにより奏でられ、独奏ピアノ、ヴァイオリンに引き継がれます。途中、不安な雰囲気メロディーが一瞬現れますが、曲の最後には、再び冒頭の主題がヴァイオリンと独奏ピアノにより奏でられ、幸福感と優しさに満ちた雰囲気で曲が終わります。

第3楽章 Allegro scherzando 低弦の弱音で始まり、躍動感のある第1主題が奏でられた後、この楽章の主役である優美な第2主題が登場します。この第2主題は、始めはオーボエとヴィオラによって奏でられ、独奏ピアノが引き継ぎ、次に登場する時はヴァイオリンとフルートで演奏されます。また、フィナーレでは、豪華絢爛なピアノ独奏の後にオーケストラにより盛大に奏でられ、希望に満ち溢れた雰囲気で曲が終わります。

— 休 憩 (15分) —

交響曲第5番 ホ短調 (P.I.チャイコフスキー)

チャイコフスキーは生涯に6つの番号付きの交響曲を残し、この交響曲5番は第4番の約10年後の1888年に作曲された作品です。初演は作曲者自身の指揮で行われましたが、聴衆の反応は良かったのですが、専門家の評価は芳しくありませんでした。初演に引き続きその後2回の演奏会でも指揮をしましたが、チャイコフスキー自身はこの交響曲に自信を失ってしまいました。「第5番を火に投げ込むつもりであった」と語ったとも言われていますが、その後、大指揮者ニキシュによる演奏により大成功を収めこの交響曲の真価が広く世に知られるようになりました。



P.I. チャイコフスキー
(1840～1893)

第1楽章 Andante - Allegro con anima 序奏はクラリネットによって全楽章にわたって登場する「運命の主題」が提示されます。主部は弦楽器による行進曲調のリズムにのって、クラリネットとファゴットによって「運命の主題」から派生した第1主題が提示されます。この主題が変化を繰り返しながら頂点に達し、第2主題へと移ります。第2主題では「生命の歓喜に満ちた陽気なさえずり」と表現される活力のある動機が奏でられます。展開部から、コーダに入りベースラインが「運命の主題」に基づく下降音型を繰り返し、暗く重い響きで終わります。

第2楽章 Andante cantabile, con alcuna licenza 弦楽器による静かな前奏に続き、ホルンのソロにより甘美で叙情的な第1主題が奏でられます。それに続き、オーボエとホルンがカノン風に旋律を提示し、チェロによる第1主題に引き継がれます。情熱的に奏でられ高揚した音楽は短い終止の後落ち着きを取り戻し、ヴァイオリンとヴィオラによる副次旋律が始まります。中間部に入るとクラリネットによるノスタルジックな旋律が奏でられ、様々な楽器に受け継がれ大きく盛り上がり、「運命の主題」が力強く現れます。再現部に入りピッチカートの伴奏でヴァイオリンにより主旋律が奏でられ、再び「運命の主題」が突如として現れ、コーダを経て静かにこの楽章が終わります。

第3楽章 Valse. Allegro moderato 交響曲でワルツが置かれたのは初めてで、ワルツの旋律は3種類あります。ヴァイオリンによる前奏のない優雅なワルツから始まり、オーボエとファゴットによる第2のワルツ、ファゴットのソロによる第3のワルツに続きます。中間部では細かい音符のパッセージが特徴的でスケルツォ的な軽やかな音楽となります。再び第1のワルツが戻り、コーダではクラリネットとファゴットによって「運命の主題」が陰鬱に奏でられ、最後はフォルティシモで終わります。

第4楽章 Finale. Andante maestoso - Allegro vivace 冒頭で弦楽器により「運命の主題」が荘厳に奏でられ、管楽器に受け継がれていきます。序奏が静まる中、ティンパニーのトレモロとコントラバスに導かれ荒々しく野生的な第1主題が現れます。音楽は目まぐるしく変化していき、木管楽器の第2主題が盛り上がり金管楽器による「運命の主題」が力強く登場します。展開部に入り再び「運命の主題」が現れ、盛り上がりを見せた後、全体止をはさんでコーダとなります。コーダでは「運命の主題」が凱旋行進曲のように高らかに響き、ホルンとトランペットが豪快に掛け合って最強奏の和音で力強く全曲を締めくくります。



指揮 上野 正博 Masahiro Ueno

東京藝術大学音楽学部指揮科卒業。同大学院音楽研究科指揮専攻修了。指揮を山田一雄、松尾葉子、F.トラヴィスの各氏に師事。'94年東京国際音楽コンクール指揮部門に入選。'96年、ベルリン芸術大学に留学。'98年、ミトロプーロス国際指揮者コンクールに最高位（1位なし2位）入賞を果たし、併せて「ミトロプーロス・ゴールドメダル」を授与された。オペラでは「フィガロの結婚」「魔笛」「カルメン」「蝶々夫人」「カヴァレリア・ルスティカーナ」「春香（高木東六作曲）」など積極的に公演を行い成功に導いている。また、国内主要なオーケストラへ客演を重ねている。特に群馬交響楽団においては年間契約指揮者を20年務め密接な関係を築いた。2000年に国立ワルシャワ・フィル定期公演、ウィーン室内管のオーストリア・ツアーを指揮してヨーロッパ・デビュー。'06年には、ラボラトリウム国際現代音楽祭（ワルシャワ）に招聘されるなど海外でも着実に活動を続けている。現在、東京藝術大学大学院、洗足学園音楽大学大学院及びフェリス女学院大学講師。



Photo ©BANAZO

ピアノ 西本 裕矢 Yuya Nishimoto

【第5回高松国際ピアノコンクール第4位 大会史上香川県人初入賞】

国際音楽コンクール世界連盟WFIMCのニューズレターで高松国際ピアノコンクールファイナルの動画とインタビューが公開され話題を呼ぶ。香川県での凱旋リサイタルは早期完売し四国新聞で報道された。歴史的フォルテピアノのピリオド奏法を研究し ポーランド国立ショパン研究所開催の第2回ショパン国際ピリオド楽器コンクールワルシャワ本大会に出場。ポーランド国営ラジオ局で演奏とインタビューが放送され注目を集める。香川ジュニア音楽コンクール金賞及び西日本放送賞。ショパン国際ピアノコンクール in ASIA アジア大会ソロ部門及びコンチェルトA部門史上最年少優勝のほかスタインウェイコンクール ブルクハルト国際 ザルツブルク=モーツァルト国際 in Tokyo アジア国際にて第1位。全日本学生コンクール 日本ピアノコンクール スイスルガーノ国際コンクール 藝大ピアノコンクールにて第2位。藝大アリアドネ・ムジカ賞受賞。「ポーランドの至宝」記念リサイタル 浜松国際リサイタルに出演。ヤマハ銀座サロンコンサートシリーズにて西本裕矢リサイタルを開催。重要文化財である旧東京音楽学校奏楽堂で東京デビューリサイタルを行い全国各地で本邦初演リサイタルを継続。月刊ショパン2023年11月号で執筆活動を行い 香川県の和菓子「銘菓観音寺・名物かまど・献上菓」をPRした。東京交響楽団 東京フィル 瀬戸フィル 藝大フィルと共演。ヤマハ音楽支援制度奨学生満了。藝大附属高校卒業後 同大学3年宗次徳二特待奨学生。日本芸術協会奨学生。公式SNSアカウント Facebook : Yuya Nishimoto また Instagram : nishimoto.yuya で公演情報を発信している。



Photo ©Yoshinori Kurosawa

コンサートマスター 三浦 章宏 Akihiro Miura

東京フィルハーモニー交響楽団コンサートマスター。筑波大学人間学類卒業後NHK交響楽団に入団。第53回日本音楽コンクール入選、第25回ディボール・ヴァルガ国際コンクール最高位など受賞多数。ソリストとして国内外のオーケストラとコンチェルトの共演、リサイタル、室内楽など多彩な演奏活動を展開。ポアヴェールトリオ、ヴェーラ弦楽四重奏団、鎌倉芸術館ソリストメンバー。宮崎国際音楽祭に毎年出演。国立音楽大学、洗足学園音楽大学非常勤講師。トヨタユースオーケストラキャンプ講師。せたがやジュニアオーケストラストリングセクションディレクター。姫路市ジュニアオーケストラ特別講師。東京フィルハーモニー交響楽団コンサートマスターとして2001年就任以来、名誉音楽監督チョン・ミュンファン氏はじめ指揮者陣からも厚い信頼を得ている。2020年、初のソロアルバム、ベートーヴェンソナタ集vol.1【クロイツェル】をリリース。22年、vol.2【スプリング】をリリースした。
公式HP <https://akihiro-miura.com/>

管弦楽 高松交響楽団 Takamatsu Symphony Orchestra

1951（昭和26）年8月、故 緒方益岡氏が県内の有志を募って創立。同年11月香川県公会堂において第1回定期演奏会を開催し、高松に初めてオーケストラの灯を燈す。爾来、半世紀以上に亘る活動を続け、2021年に創立70周年を迎えた。これまで120回を超える定期演奏会をはじめ、香川県県民ホール開館20周年記念オペラ「蝶々夫人」全幕公演（2008年）、サンポートホール高松開館5周年記念「カルミナ・プラーナ（パレエ付き）」公演（2009年）、かがわ文化芸術祭60周年記念「日本を代表するオペラ歌手による祝賀演奏会」（2018年）への出演、オペラ・パレエ等の他団体や地元音楽家との共演、さらには2001年より香川県の主催事業となった「かがわジュニア・フィルハーモニック・オーケストラ（KJO）」への演奏・運営面での全面協力など地域に深く根ざした幅広い活動を積み重ねている。1987年、地方文化の発展に大きく貢献した功績から音楽団体として四国で初めての「地域文化功労者表彰」を文部大臣より受賞。2008年、香川県より栄えある第1回「文化芸術選奨」を受賞。現在、オーケストラの団員数は、約150名。

演奏会のご案内（予定）

主催 ● 協力

※掲載の公演予定は、2023年11月20日現在のものです。

音楽のミニアチュール クリスマスコンサート

日時 2023年12月3日(日) 14:00 開演
会場 高松市美術館 エントランスホール
出演 高松交響楽団団員による
フルート四重奏、金管五重奏、弦楽合奏
曲目 戦場のメリークリスマス（坂本龍一） アイドル（ayase）
鬼滅の刃メドレー くるみ割り人形（チャイコフスキー）
アンダンテ・フェスティーボ（シベリウス） ほか
主催 高松交響楽団

● コレギウム・ムジクム高松 第28回演奏会

日時 2024年2月10日(土) 18:30 開演
会場 レクザムホール（香川県県民ホール）小ホール
指揮 大山 晃
曲目 詩篇115番「我らにはなく、主よ」（メンデルスゾーン）
カンタータ第197.1番
「いと高いところの神に栄光あれ」（J.S.バッハ）
（復元楽曲・日本初演） ほか
主催 コレギウム・ムジクム高松



高松交響楽団 第130回定期演奏会

日時 2024年6月23日(日) 14:00 開演
会場 レクザムホール（香川県県民ホール）大ホール
指揮 山上 紘生
ピアノ 青島 周平（第5回高松国際ピアノコンクール2位）
曲目 「軽騎兵」序曲（スッペ）
ピアノ協奏曲 ト長調（ラヴェル）
交響曲第3番 ハ短調「オルガン付き」（サン=サーンス）
主催 高松交響楽団



高松交響楽団 第131回定期演奏会

日時 2024年11月24日(日) 14:00 開演
会場 レクザムホール（香川県県民ホール）大ホール
指揮 田中 一嘉
主催 高松交響楽団

【高松交響楽団ホームページ】 <https://www.tso.gr.jp/>
（HP制作協力：ファインキャット <http://www.fine-cat.com/>）



高松交響楽団
公式インスタグラム



【問合せ】 e-mail：mail@tso.gr.jp

団員募集のお知らせ【2023年度・第3期】

募集締切 2023年12月31日
募集パート 弦楽器 若干名
選考方法 オーディションによる

楽器堂
GAKKIDO CORPORATION
www.gakkido.jp



いい音楽との出会いを大切にします
ピアノ 管楽器 弦楽器 ギター ベース 打楽器 及び楽譜販売
楽器堂オーバサイオンモール高松店
高松市香西本町1-1イオンモール高松1F
TEL：087-832-8016

楽器に関するご相談、何でも受付中です！